

P-118

1. 背景・目的

- ・ 大腿骨近位部骨折は高齢者のADL低下・要介護化
- ・ 海外ガイドラインは術後24-48時間以内の離床開始が、本邦の実臨床データでの中長期予後の検討は少ない
- ・ 目的：早期離床（術後48時間以内の立位・移乗開始時点の歩行自立との関連を検討する。

3. 結果① 1年後歩行自立

高齢者大腿骨近位部骨折術後 —単施設後

○松本 健二¹・小川

¹ ○○県立中央

2. 方法（単施設

化の主要原因。
開始を推奨する
ない。
開始）と術後1年

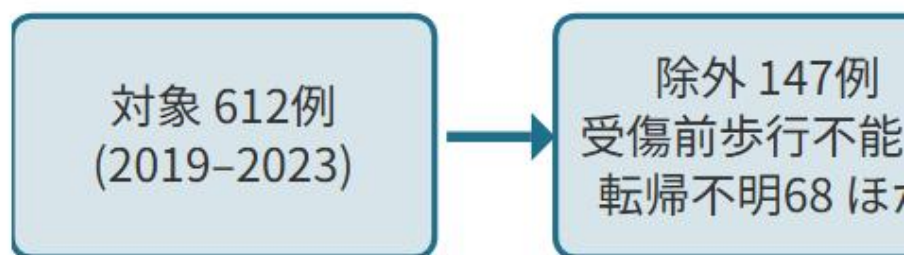


図1. 対象選定（65歳

は早期離床群で15.6ポイント

術後の早期離床と1年後 後ろ向きコホート研究

美咲² ・ 林 大輔¹ ・ 加藤 静香¹

病院 整形外科 ² 同 リハビリテーション科

・ 後ろ向きコホート)



歳以上 ・ 骨接合術/人工骨頭)

- ・ 曝露：術後(同定)

- ・ 主要評価：1
- ・ 解析：多変
- 傷前歩行能力

- ・ 倫理：当院

高い (主要評価)

歩行機能の関連

(架空)

術後48時間以内の立位・移乗開始（PT実施記録から

術後1年の歩行自立（監視なし屋内歩行）

変量ロジスティック回帰（年齢・性別・認知症・受
力・術式で調整）

院倫理委員会承認（R5-000／架空）・オプトアウト